【Zoom】法然上人［1133-1212］の言葉を読む　令和２年10/17（土）佐々木奘堂

●９．　このはしべきにてか。

う。これはのとてえども、**きにてなり**。おおかたをば、**われらは、えせぬにてぞ、のためにもおもわれぬことにてえば、に**。

9-01・「浄土宗総合研究所」発行『法然上人のご法語３対話編』から現代語訳：

　『真如観』に説かれる、心を静めてすべての存在がそのままで真理であると体得する行を修めるべきでしょうか。

　お答えします。これは、恵心僧都（源信）が説かれたとのことですが、感心できない教えです。およそ『真如観』に説かれる行は私たち衆生になし得るものではありませんし、往生のために必要なものとも思われませんから、無益なことです。

9-02・「真如観」の注釈：

　源信［942-1017］作と伝えられるが成立は不詳。本書では、あらゆる存在がそのまま真理であると観ずる真如観を説き、これを仏教すべての教えに通ずる中道観とした。この中道観を徹して自己の心と真如とが不二であると観ずれば、このわが身は、釈迦・弥陀・薬師等の諸仏や普賢・文殊・観音・弥勒等の諸菩薩、あるいは釈尊一代の八万四千の法門や自行・化他の因果などと不可分であると説く。そして、そうした状態が即身成仏であり、浄土往生の成就であるとする。

●９－２．

　これにしてところは、**もむなしとぜよ**として。

　としは、これにてな。さればじべきようは、たとえば**こののことをしてうまじき**とえてとえてえば、おおようらんのためにまいらせ。

　う。**これはみなとてかなわぬにてなり。… たずねまでもに。**

9-21・現代語訳：

　『真如観』の意図するところは、「何事もむなしいものと体得しなさい」ということのようです。いわゆる「空観」とは、このことでしょうか。だとすれば、「体得すべきは、たとえばこの世のことに執着してはならない」と教えているように思われます。以上のことについて、おおよそのことをお示しいただくように仰せつかって参りました。

　お答えします。それらは総じて「理観」といい、心を静め、無念無想のまま心理を体得する行ですから、とても叶うものではありません。… 往生を願う上にはそうしたお尋ね自体、無益なことです。

9-22・「理観」の注釈：

　覚りを得るために、心を静め、無念無想のまま、智慧をもって心理を思念する修法（観法）。「理」とは、普遍的・絶対的な真理や理法を指し、個別的・具体的な事象や現象を意味する「事」と相対関係にある。したがって、理観とは、「事」を思念の対象とすることなく、直ちに真理そのものである「理」を思念する修法である。

9-23・参考：馬祖禅師［709-788］の言葉

う、「なるか、？」 く、「はにさず。…

す。…、は、ち、にす。にもし、にってせば、にしてし。… にることわずして、にい、をい、いの、りにり、のをる。」

●９－３

ある人問うていわく、色相観は観経の説なり。たとい称名の行者なりというとも、これを観ずべく候か、いかん。

上人答えての給わく、**源空もはじめはさるいたずら事をしたりき。いまはしからず、但信の称名なり**と。

●９－４

　源空も念仏のほかに、毎日に阿弥陀経を三巻よみ候き。一巻は唐、一巻は呉、一巻は訓なり。しかるを、この経に詮ずるところ、ただ念仏申せとこそとかれて候えば、いまは一巻もよみ候わず。一向念仏を申し候なり。

●９－５

の、をなすなかれ。をずとも、・がりたるだにもじあらわすべからず。のをずとも、の菓も、じあらわさんかたかるべし。かの、ににしてしえり。にるべし、の、しからざることを。すれば、ずをのをじて、ふかくをたのみて、にをうべし。をうれば、、おのずからするなり。

●９－６

源空は智徳をもって人を化するなお不足なり。…我もし人身を受けば大愚痴の身を受け、念仏勤行の人たらん。

浄土宗の意に依らば、一切の教行は悉く念仏の方便と成る。

●１０．　上人つねに仰られける御詞

また云く。**本願の念仏には、ひとりだちをせさせて、をささぬなり**。すけというは、智恵をもすけにさし、持戒をもすけにさし、道心をもすけにさし、慈悲をもすけにさすなり。

善人は善人ながら念仏し、悪人は悪人ながら念仏して、ただまれつきのままにて念仏する人を、念仏にすけささぬとは云うなり。

さりながら、「**をあらため、となりてせんは、のにべし**、**かなはぬゆえに**」**、とあらんかからんとて、おこらぬは、のなるべし**。

●１２．　**らばのつもり、なばへまいりてなん**。**とてもかくても、にはひわずらふぞなき**とぬれば、にわづらいなし。